

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム ふじい
所在地 (県・市町村名)	大阪府茨木市見付山1-3-29
記入者名 (管理者)	山梨 恵子
記入日	平成 20 年 8 月 25 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の人権を尊重し、地域との交流を重視して利用者のニーズにこたえながら、家庭的な雰囲気の中で支援し、開かれたホームをめざしている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員ひとりひとりが、理念の中身を把握し、職員会議、毎日のミーティングや掲示等で再確認し、日々のケアに取り組んでいる。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議を介して、地域の民生委員、福祉委員さん達に、ふじいの理念や出来事、様子などを理解して貰っている。ご家族には、家族会やホーム便りにより理解して貰えるよう取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎日の散歩時、近所の動物を飼っている人との立ち話や畑の野菜や花などをみても、懐かしそうに昔をおもいだしたりで、自然なふれあいを感じている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会、老人会の招待行事に参加しており、また、一人暮らしの老人との交流では、一緒に食事をして、お話をしたり、ボランティアによる楽器演奏を聴く等で楽しくすごしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議開催時、地域の自治会、福祉委員、民生委員の方に出席してもらっているため、色々と話がでている。地域の一人暮らしさんとの交流で懇談会や食事会などをおこなっている。また地域のイキイキサロンに参加、一人暮らしの方との交流もおこなっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	会議や研修などを通じて、できることは職員の業務改善に関する意見をとりいれて、伝達研修をおこなっている。日頃から評価の有無にかかわらず実施するようにしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用者や家族のサービスに対する意見を実際に聞くことができ、向上に役立っています。(例えば排泄の介助の中で同意をもらっている。)		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村が行う介護予防、地域で利用可能な介護保険外のサービスについての情報を収集、必要に応じて入居者のサービス提供にいかしています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	段階に応じた外部研修を職員が受講できる体制が用意されています。新人研修、人権研修などを実施しています。必要に応じて施設内研修をおこなっています。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束その他入居者の行動制限は行わないことを職員に徹底しています。家族にも運営規定、重要事項説明書にわかりやすく説明しています。拘束を行わない為に車いすの福祉設備、居住空間についても工夫し配慮しています。また危険のあるときは家族に同意を求め書面に署名を貰っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居前の面接時、退所時の際は、家族に十分な説明を行い納得して貰っている。家族に利用者さんの実際をみてもらって、話し合い、次の段階へお手伝いさせて貰い、今までに問題は起こっていない。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者が意見、苦情の相談しやすいように、第三者相談員を設置しており、相談内容に応じた体制を整えています。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月ホーム便りを家族のもとへ届けており、利用者個々の健康状態、金銭管理、その他定期的に報告しており、大変喜ばれています。日中及び夜間の出来事を個々にお知らせすることで家族が利用者さんの事を共有でき信頼関係ができています。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族からの意見、苦情申し立ての時は記録し、その背景や対応方法を整理して今後のサービス提供にいかしている。苦情の内容は担当窓口を設け、ホーム内の対応方法を職員に周知、徹底している。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員の日々の気づきに対応しております。大事な事は皆で意見や要望など出して貰い、できることから実施している。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の急な変化状況の時は、職員も勤務時間帯を変更、確保している。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者や職員とのなじみの関係が保たれています。日勤者の異動はここ数年ありませんが、夜勤者は一年毎に1名が変わっています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	法人内外の研修にできるだけ参加している。段階的に初級、中級、上級と認知症研修を予定している。	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	グループホーム同業者、高齢者サービス事業所の職員と交流をもち、お互いに勉強会をして質の向上に努めている。	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	職員には適時希望に応じて休暇をとって気分転換してもらっています。少人数の職員なのでお互いに相談しあい、仕事しやすいうようにしています。	○ 介護職の人数に余裕がないので、もう少しゆとりのある介護をめざしたいと思う。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	職員個々に研修に参加したり、資格をとって貰い、質の向上にむけている。個々の努力や勤務態度については常に把握して、意気の高揚につながるよう努めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	入居者が気軽に苦情や意見を言えるよう雰囲気作りに心がけると共に、申し出られた本人が気まずくならないように配慮しています。	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	家族が相談しやすいよう、第三者相談員を設置したり、相談内容に応じた機関を紹介したり、連絡をおこなう体制を整えています。必要に応じて入居者や家族との相談の機会ももっています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と家族の意向をうかがい、話し合い、具体的に何を求められているのかをみきわめ、支援に努めています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人と家族様に実際にホーム内をみていただき、それまでの生活状況などの話をきき、時には入居者さんの中に入ってひと時をすごして貰い、ご本人に安心して利用して貰えるように、心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	これまでの生活歴を尊重、ご本人の存在を確認して貰えるように努めている。調理や洗い物、食事を共にする中で、でてくる話は学ばせていただく事も多く、支え、支えられる基盤となっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	毎日共に生活している立場から常に連絡をとりあい、話し合い、共に支援して協力していただいている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会の自由を支援、かかわりを密にさせていただけるように努めている。本人と家族との橋渡しの役目をにない、よき関係をきずいて貰えるようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	全く制限は設けず、自由にかかわっていただけるように支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	お互いがお互いを認め合えるように、さりげない形で支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	グループホームでの生活がむつかしくなり、他施設へ転居された場合も、これまでの関係を大切にして、できる協力はおしらず支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の方々との日常の会話を大切にしており、希望や意向を把握し、連絡簿や介護日誌に記録し、職員が共有、実現に向かって努力している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴や暮らし方などを家族やかかわりのある方から、情報を頂き記録し、職員が共有、把握につとめている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ひとりひとりの日々の心身の状態等を確認して、過ごし方を工夫している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の方にとって、どうする事が心地よい生活が営めるか、面会時や家族会などで、ご家族と話し合い、また職員間の意見もカンファレンスで集約し、介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日常生活で心身にすこしでも変化のみられた場合は、その都度かかわりのある方々と話し合い、介護計画を見直している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアを個別にケースに記入し、また日々の生活の中での変化を共有する為に、看護日誌や連絡簿に書き込んでいる。その情報を活用し、介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の春菊苑との連携を密にして、クラブ活動や、各種行事に参加して貰っている。同じく併設の診療所で受診する事により、処置を受けつつ生活を継続し、利用者の負担の軽減に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の公民館、文化行事などに参加、ボランティアの協力もえています。避難訓練、消火訓練にも参加、地元の警察、消防に当施設の内容は把握していただいている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のグループホームとの交流会や、併設施設への行事参加等を実施し、関係者と話し合い、より広いサービスを求めて支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	法人内に地域包括支援センターがあり、対応できる体勢は整えている。	○	まだ直面していないが、センターの職員と話し合っており、対応できる体制はある。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、家族様と話し合い、かかりつけ医の受診を実施、また併設の診療所を受診、それぞれの情報や結果は逐一報告、了解を得て利用者の方に最善を尽くすよう努力、またすべて看護日誌に記入し情報を共有している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>ご本人の状態をみきわめ、ご家族や、かかりつけ医と相談しながらとりくんでゆきたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳に気を配り、理解されるまで、ゆっくり、丁寧に言葉かけをしている。個人情報の記録の取り扱いには気を配り、鍵のかかるところに保管し、すべての職員が個人情報の秘密保持の徹底を図るようにつとめている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者本人の思いや希望が表現できない時は、職員がゆっくり、かかわり、ご自分で表出できるまで、話し合い、支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者が自分のペースを保ちながら、日々の生活をされるよう支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	季節に合わせたその人の好みの衣服を身につけている。月1回、併設で理容ボランティアがあり、それを利用し、ご本人やご家族の要望にそうようにしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好物を献立に盛り込み、食材は旬のもの、新鮮なものをとり入れ、職員と利用者がお互いに手分けして、準備やかたづけをしている。また、昼食は職員も一緒に、会話をしながら食べている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご本人の好みのパンやおやつ等は、職員と一緒に買物に行き購入し、提供している。お酒はお誕生会や行事などの時、提供している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ひとりひとりの排泄パターンを把握し、さりげなく声かけし、失敗回数を減らし、気持ちよくすごしていただけるように努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応火、金、日を入浴日としているが、時間帯ともに、臨機応変の対応を心がけ、希望により、シャワー浴も随時実施している。入浴中も歌ったり、おしゃべりしたりとリラックスされている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室内の温度を調節し、安眠していただけるように配慮している。談話コーナーでだんらんしたり、テレビをみたり、お茶をのんだり、ゆっくりすごされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事準備、掃除、洗濯、植物や生き物の世話などの日課の中でその方の力を活かした役割を果たしていただいている。レクリエーションやクラブ活動、交流会、行事などに参加し楽しまれている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	状況に応じてお金を所持し、買物やホーム喫茶などで使用できるようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	好天の日は、できるだけ一人ではなく、複数の方々に声かけし、脚力に合わせて、いくつかのコースを相談して散歩にかけている。一人で外出される時も、必ず職員が同行しきまもっている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族に飲食や買物、墓参り、帰省等を随時お願いし、実現している。花見、本山参拝、お誕生会、外食なども実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のあるときは、事務所の電話でお話いただいている。年賀状や手紙の返事などの支援も行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪問していただけるように、玄関は施錠せず開放している。また来訪時は居室でゆっくりすごしていただいている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束の事を、ミーティングや研修で理解し、身体拘束をしないケアにとりくんでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は鍵をかけずに小型受信機をとりつけ、出入りに注意を払っている。中間のドアのところで棒をさしこむ事で、不審者の侵入を防ぎ、利用者の身の安全を確保している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼間は利用者と一緒にコミュニケーションをとりながら、所在や様子を、見守っている。夜間は夜勤者が1～2時間間隔で、居室の利用者の状態を見回っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	化粧品も誤飲の防止、並びに入浴後の使用のために預かっている方もある。また不必要な紐類も事務所で預かっている。夜間、危険物は、すべて事務所に保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	屋内はバリアフリーにし、手すりもとりつけ、転倒防止に気をつけている。薬品や洗剤は、見えない場所に保管し、鍵をかけている。また、迷子になった時のため、靴底に連絡先のメモをいれている。適時避難訓練を、実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当の講習会で実習したり、初期対応の仕方をマニュアルし、いつでもかかわれるようにしている。夜勤者は事務所を離れる時には携帯電話を持ち移動している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を、時間帯もいろいろに、3ヶ月に1回実施している。日頃より、地域の警察署や消防署と連携をとりながら、また地区の福祉委員、独居老人、自治会の方々に、協力をお願いしている。非常用持ち出し袋も用意している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	面会時や家族会、介護計画サービス書を説明する時などに、ひとりひとりのリスクについて、家族に話し、毎日の生活を大切に、おこなっていただくように支援している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックや、日常生活の中で異変に気づいた時は、施設長に連絡し、看護師とも連携をとり、看護日誌に記入し、全員が確認している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は薬手帳、薬リストにその都度つずり、変化のあった時は連絡簿に記入し全員が確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の食材も多くとり入れ、水分摂取にも気をつけている。散歩やレクリエーションなどで身体を動かしていただくとともに、お腹のマッサージもすすめている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、声かけ、見守りをして、口腔の清潔に努めている。週1回歯科衛生士による、口腔ケアをうけている。さらに週1回、義歯の洗浄を実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を作成しているが、各利用者さんの、その日の健康状態に配慮しながら、対応している。また嚥下困難な方には、調理を工夫、水分補給にはお茶を常設、声かけを実施している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	研修に随時参加、学習してきた事は即実行している。一例として、手洗い、うがいの励行、入浴時の足浴桶、マット、タオル等、各個人用を使用し、注意をはらっている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具は勿論、食器類の洗浄、消毒、おしぼりの煮沸、消毒は毎回実施、携わる者の手指の洗浄、消毒、食材の加熱処理、新鮮な素材を調達、全員月1回の検便等実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は夜間以外ロックせず、出入り自由にしてはいますが、中間のドアのところで棒を差し込む事で、不審者の侵入を防ぎ、利用者の身の安全を確保している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎に飾り物、花、掲示物、作品をさりげなく配置、利用者さんに楽しんでいただくようにしている。また、行事などその都度撮った写真を展示、その前で話が盛り上がり、よい雰囲気と和気あいあいとされています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	たとえば、廊下のベンチやソファ、談話コーナーなどお好きな場所でおしゃべりがはずみ、またお互いの居室を訪問し楽しんでおられます。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、仏壇、また家族の意向をとりいれ、机や、軽いスポーツ器具などもおき使用されている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除の時、昼食前の体操時、窓の開口、施設内の換気は常に実施している。エアコン使用中は、温度計や入居者の様子をみながら調節している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下の手すりを利用しながらの歩行運動、また休憩や談笑される場としてベンチやソファでゆっくりすごされている。トイレや浴室にも、使い勝手の良いように、工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室の入り口には、その方の目線にあわせ、顔写真や名前を貼っている。また、トイレ表示なども工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭の野菜や花の世話など、また収穫の喜び、食卓ではとりたての野菜を、めしあがり喜ばれている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
		○	③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input checked="" type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

高齢期の食事 健康で楽しい毎日をおくりたい、生き生きと暮らしたい、その為には食生活の充実が必要だと考えており、栄養バランスの良い食事をとり、高齢期を元気にすごして貰えるよう努めている。利用者さんのその日の心身状態を配慮して、それぞれ分担し職員と共に調理や盛り付けに取り組んでいる。日々新鮮な食材を仕入れ、みんなで育てている、ふじいの畑からのとりたての野菜を食卓にのせている。皆さん昔の事をおもいだしながら、一生懸命つくっています。食事ってとても大切です。